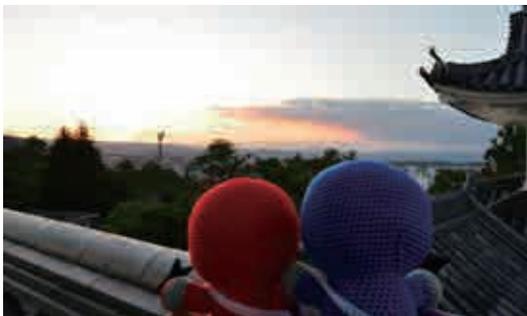
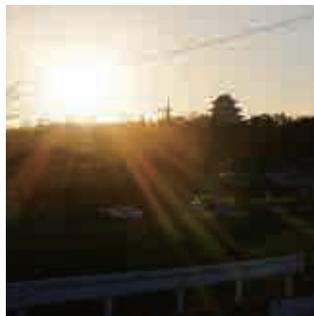
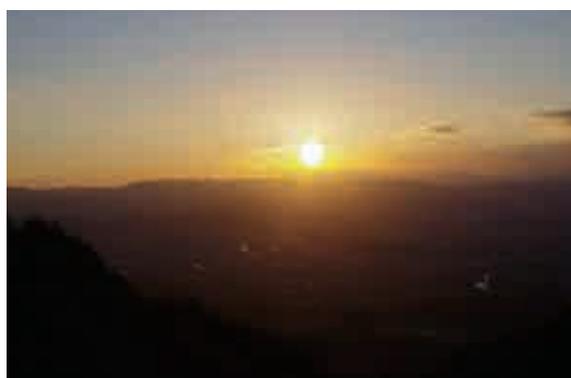
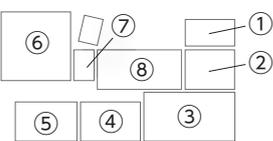


# 今日の伊賀を照らす 日の出

市内の各所から見える日の出です。表紙に掲載した写真は伊賀上野城で撮影しました。



①上野丸之内地内から撮影②小田地内から撮影③御斎峠から撮影④伊賀上野城から朝日が昇る直前に撮影⑤朝日に照らされる伊賀上野城⑥伊賀上野城の門の中から撮影(特別に開門していただきました)⑦脚立に上って朝日待つ撮影班⑧伊賀上野城から朝日を眺めるにん太としのぶ(編みぐるみ)



## 伊賀市の文化財 87

### 国史跡旧崇広堂の保存整備事業 (上野丸之内)

旧崇広堂は文政4年(1821)、津藩の藩校有造館の支校として建てられました。嘉永7年(1854)の地震で被災しますが、間もなく復興され、廃藩置県まで藩校として存続しました。明治期には学校施設となり、明治38年(1905)から昭和59年(1984)まで図書館として利用されました。この間、昭和5年(1930)11月、講堂を中心とする部分が藩校の様子をよく残しているとして国の史跡に指定されました。昭和60年(1985)から保存整備の方針が検討され、平成2年度(1990)から平成5年度(1993)には講堂や玄関棟など中心的な建物を整備し、平成6年度(1994)から平成12年度(2000)にその他の建物や展示室、庭園、便益、外構、防災施設などの整備を実施しました。



▲日干し煉瓦積み上げの様子(中土塀)

平成18年度から土塀の修理を実施しています。

土塀の修理は、損傷箇所をまず除去し、土塀を支える躯体の様子を確認した後、荒壁を補修し、土の塗り重ねと漆喰で仕上げます。最初に修理を実施した中土塀は、損傷が躯体の日干し煉瓦積みまで及んでいたため、いったん、躯体を解体し、再度、日干し煉瓦を製作して積み上げ、漆喰仕上げをしました。その後、西土塀、南土塀内側、東土塀内側の漆喰を塗り直し、本年度と来年度の2力年をかけて東土塀外側の漆喰修理を行っています。



▶漆喰や損傷箇所を剥がした東土塀

保存整備事業は、旧崇広堂を本来の姿に修復することで文化財としての価値を保ちながら、貴重な藩校の姿を後世に伝えていくために行っています。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

\*土に砂や藁などを混ぜて練り、方形の型枠に入れて自然乾燥させ固めたもの。

文化財課

TEL 47・1285 FAX 47・1290